

授業実践校 ・ 授業者	太田市立北中学校 3学年 授業者 島崎 純美代 ----- 吉井町立入野中学校 1学年 授業者 横谷 隆
-------------------	--

班としての「授業実践とその参観」に臨む視点

## 「書くこと」への動機づけを工夫することの大切さ

授業実践とその参観から学んだこと (1)

- 「書くこと」への抵抗感を減らす工夫の大切さ
- 教材文の読解と「書くこと」を結びつける工夫の大切さ
  - ・年間指導計画を見直して、教材文と「書くこと」を関連させた学習課題を設定したところ、多くの生徒が、抵抗感なく自分の思いや考えを表現できるようになりました。



授業実践とその参観から学んだこと (2)

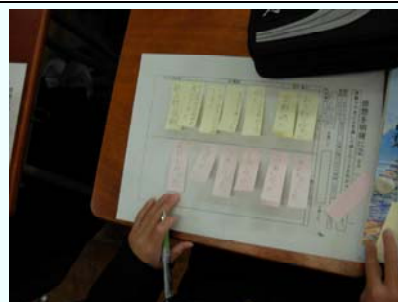


- 「書くこと」への関心が薄い生徒への手立ての大切さ
  - ・考えを明確にしたり、思考を深めさせたりする学び合いを取り入れました。「アドバイスタイム」や「シークレットトーク」(小グループでの話し合い活動の通称) など、意見交換を行う機会を設けました。他の生徒の意見を参考にしながら、自分の考えを深めることができ、 「書くこと」への意欲が高まりました。

授業実践とその参観から学んだこと (3)

- わかりやすい手立てを工夫することの大切さ  
補助教材…読解の道筋を示す「お助けプリント」など  
分類法……枠組み等を考えさせるのに有効な色分け付箋紙
- 発問を明確なもの、簡潔なものにすることの大切さ  
**発問はシンプルが一番！**

- ・思考の流れや考え方を、わかりやすくとらえられるような補助教材や、視覚に訴える分類法などを使うとともに、簡潔で明確な発問を工夫して行くと、考えを表すのが苦手な生徒も、自分なりにまとめて書き表すことができました。「わかる」「できる」という成就感・達成感を持たせる手だての工夫が大切であることを感じました。



担当指導主事

生徒指導相談グループ 井上 淑人